

拝啓、時下益々ご清栄のことと拝察申し上げます。

さて、わたくし、ご覧の通り、「大樹」です。「ひろき」と読みます。

先日、読売新聞の記事を職場の人に教えてもらい、またインターネットで貴町のホームページを拝見し、さっそく応募させていただく次第です。



自分の名前は、昔から漢字にしても読み方にしても、非常に変わっていると思っていて、小さいころは「一郎」とか「明」とか言う名前にあこがれていました。が今では、すっかり自分の名前が気に入ってます。読みは、とにかくあらゆる読まれ方をしてきましたが、親がつけた読みよりも、「たいじゅ」というのが気に入っています（「たいき」はそのつぎくらいです、すみません…）。しかし、実はこの名前、結構世の中にはあるらしい、と最近気づきつつあります。

93年の冬に、友だちと寝台特急「北斗星」で、北海道にスキーに行ったことがありました。その帰り、一緒に乗りあわせた親子連れ、淡路島からはるばるやってきたというお父さんは大の電車＋北海道好きで、北斗星で30回以上北海道に上陸したことがあるそうです。子供の方は5歳の活発なかわいい坊やで、名前は「大樹」くん。お父さんは、この子が生まれたとき、北海道にちなんで「北斗」にしようか「大樹」にしようか、えらく迷ったすえにこの名にしたそうです。

さて、そんなことにはいまだ気づかなかった92年の夏、わたしもライダーの端くれでありまして、ごたぶんにもれず、ライダーならだれでもあこがれる北海道一周ツーリングに参りました。その折、地図上に貴町の名を見つけ、これはもう行ってみるしかない、立ち寄ってみたことがあります。役場に寄って観光課(?)で地図などいただき、町長さんを表敬訪問しようと思いましたが、それはあまりにあつかましいので止めにして、役場と大樹小学校の校門前で記念写真を撮ってきた覚えがあります。確か当日はとてもよい天気でした。広々とした十勝平野での日々には、いろいろとよい思い出があります。

これをきっかけに、しばらく足の遠のいていた北海道に、急に気持ちが引かれる思いがします。その折には、是非大樹町に行ってみたいと思っております。

末筆ながら、貴町の益々の発展をお祈り申し上げます。敬具

今から9年前、元気に産声をあげた息子の顔を見てすぐ頭にうかんだのは、「この顔は大樹(だいき)しかない」でした。10カ月間お腹の中で、すくすく育つ我が子の名前は、なかなか決まらず、いくつかの名はあがっていましたが大樹という名はその頃、候補にはあがっていませんでしたがなぜか顔を見たたん、字まで思いつき命名しました。

大きく、強く、しっかりと大地に根を張り、まっすぐ育つ大きな木(樹)という気持ちがこめられています。

5年前に大樹町を知り、息子をつれて役場の石碑前で記念写真を撮りました。当時はよく意味もわからず、大樹町役場を見て笑っていた息子も、今では自分と同じ名前の町があるということを理解し、少しはずかしげに笑い、周囲ではめったにないことなので、何か特別のような、不思議な気持ちで喜んでいきます。また同じ役場前で写真を撮りに行きたいと思っています



新聞の募集を見て、びっくりしました。

昨年10月に出産し、男の子が生まれ、「大きい樹木のように地に根を張って育つように…」と主人が「大樹」(ダイキ)と名づけました。

まさか、大樹町の方が大樹という名の人を募集し、このように全国に呼びかけるとは思ってもいませんでした。家族全員、もう大喜びです。(父・母)



## 北海道厚岸町の大樹さん

特別住民番号607

この度、「息子の名前の命名について」のテーマとのことでしたが、実は全くの偶然な訳で私も息子が生まれて1年くらいしてから、知った次第です(母親の方も、「まったく考えたことなかった。」と言ってました)。息子“大樹”の名前にきめる前に母親のおなかにいる時は女の子の名前で呼んでいたのです(勝手に女の子ときめてピンクの服などを用意した位です)。男の子の名前を考えていた所“大樹”という名前が頭にうかび「大」というイメージを「広く・高く」と思い夢・希望・良心・愛情など人生において姿や形では見えないけど、「広く・高く」心に根ざして欲しいと思い、また「樹」というイメージを考え「太い・雄々しい・強い」と思い、努力・忍耐・気力・勇気をたく逞しく育てて欲しいと思い「大樹」と命名しました。現在の大樹は小学4年生ですが、まさに名前の通り努力と勇気を持つ子供に育てております。(父)



## 北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号608

我が家の長男大樹「ヒロキ」は、昭和57年11月6日稚内生まれです。2年前に長女が生まれる時、姓名判断の本を読み、意味を考え呼びやすい名前を男の子だったら「大樹」、女の子だったら「優希」と決めていましたので生まれた時、新生児室にいる時から「大樹」と呼んでいました。皆さんおそらく同じ様な考え「寄らば大樹のかげ」というので名付けられたと思いますが、彼の場合も同じです。人に頼るより頼られる人間になってもらいたい、どっしりと落ち着いて優しく人を包みこむ力を持った人間になってもらいたいと願い名付けました。まだまだ「大きな樹」まで成長していませんが、おかげ様で優しくたくましく育てております。我が家は転勤族です。彼も稚内・札幌・広尾・札幌と転々としてきましたが、特に広尾町に住んでいる時には、隣町「大樹町」はとても縁があるなと感じたものでした。彼も広尾の頃はサッカー少年団に入っており、大樹サッカー少年団とよく試合、練習試合をしていました。大樹町の歴舟川河川敷のサッカー場に何度もお世話になりました。大樹は現在高校2年生、これから大きな樹になれる様に自分の進路を決める時です。枝をのびし、葉をつけ、少しずつ「大樹」に近づける様に努力を惜しまないで欲しいと思っています。



大樹町の特別町民になれた事、我が家の大樹にとって、名付けた親にとって、とってもうれしく思います。(母より)

## 東京都三鷹市の大樹さん

特別住民番号611

実は一人目は女の子だと思っていたのでなかなか名前が決まりませんでした。

しかも生後2日目にして血液不適合黄疸が重くなり、母子同室もままならず小児科で集中治療。それでも遅くとも生後7日目には決めて届も出そうと思い、産科の部屋で二人、あれこれ考えました。思いもよらなかった我が子の運命に多少動揺しながらも、強く逞しくスケールの大きな人間に育



って欲しい。そんな願いを込めて「たいき」と命名しました。

私は北海道への憧れが強く大学も帯広へ、妻は旭川生まれの道産子。それが縁で一緒になったわけではないけれど、北海道・十勝の豊かな自然と広大な大地、それに温かい人々に囲まれてすごした学生時代、いつも日高の山々を仰ぎながら、冬の厳しいシバラさえ頼もしく包まれるように感じられた偉大な自然へ畏敬の念が頭の中から離れませんでした。

いつまでもこの想いを忘れずに生きていきたいと願いながら都会での暮らしが続きました。

新婚時代に北海道を訪れたことがあり、その時のイメージを膨らませ思い出を語り合ううち、十勝の地名「大樹」が思い浮かび、紙に書いてみて子供の名前にまさにぴったり！ すんなりと決まりました。発音もせっかくの縁の地になるのだから「だいき」ではなく町名にこだわって「たいき」にしました。

子供に親の思いがどこまで伝わるかは果たしてすぐに答えが出るものではないと思います。ただ、いつか本人がこの十勝の地を訪れる時がきつとくる。その時に何かをつかんでくれることを期待して……。

いま、本人の意識の中でこの十勝の地・大樹町のイメージはどんなふうに広がっているのでしょうか。(父)

## 静岡県静岡市の大樹さん

特別住民番号615

我が家の「大樹」は、ひろきとよみます。

平成3年2月5日生まれの8歳で、現在静岡県静岡市内の小学校の3年生で、毎日サッカーボールを追いかけてまわしているサッカー小僧の我が家の次男です。

生まれは、お父さんの転勤のため引っ越しした、南国は「沖縄県の名護市」ですが、一歳の誕生日を迎えた後、現在の静岡市に引っ越し現在に至っています。

名前の由来は、お父さんが「樹」という字が好きで、お兄ちゃんの「勇樹」という名前にも使っています。次男として生まれてきた彼にも、何とか「樹」という字を使いたくて、毎晩深夜まで、命名辞典などにらめっこし、考え、悩んだ末に「大樹」と命名しました。

「樹」という一文字が持つ「たつ」という意味に、更に大という字とあわせ、緑豊かな大きな樹に育ち、心広く誰からも愛され、誰でも愛することができると共に、道標のように道知らない人が迷わず目的地まで案内することができる「ランドマーク」のような「シンボルツリー(大樹)」に育ってほしいという、親の贅沢な願いから名付けられました。

当時、同じ社宅にやはり「大樹」という先輩の子供がいましたので、どうしようかと思いましたが、読み方が「だいじゅ」であり、お父さんが考え、悩んだ末の「大樹(ひろき)」命名でした。

大樹(たいき)とは読み方は違いますが、願いは同じだと思います。

これからも、名前の由来に恥じないよう大きな樹に育つよう願っています。(父)



## 福岡県北九州市の大樹さん

特別住民番号616

私の子供の名前の由来を書かせていただきます。

私達夫婦は、昭和58年7月3日に結婚して、新婚旅行は、なんと、北海道一周旅行をしたのです。ハネムーンベビーではありませんが、最初の子供は、雄大な北海道をまのあたりにして感動した夫が、男の子が生まれたら、雄大と命名したいと願っていたので、長男は雄大と付けたのです。

さて、この度、大樹町に応募した次男の大樹は、私の亡き父が名付け親です。

私達夫婦が北海道の事をよく話していたので、長男の名前も亡き父は大変喜んでい



ました。

亡き父が日立の「この樹、なんの樹、気になる樹、なんとも不思議な樹ですから……。」を、よく歌っていました。

次男が生まれたら、気に入っていた北海道の雄大と沖縄の大樹をいいなあと、いつも言っていました。

夫の名前に樹があるので、亡き父が大地に根をはり、大きな樹になるようにと、大樹と命名したのです。

私達夫婦は、大変気に入って、大喜びで出生届を出しに行ったのを覚えています。

まだまだ、名前のように成長していませんが、亡き父が付けただけあって、負けず嫌いのがんばり屋さんです。

将来は、野球選手になって、私達夫婦を北海道旅行に連れていってくれるそうです。いつの日か、大樹町を訪れるのを楽しみに、大樹の成長を見守っていきます。よろしくお願ひ致します。(父)

## 東京都八王子市の大樹さん

特別住民番号621

私の息子(長男)は、「大樹」といいます。もうすぐ、2歳の誕生日を迎えます(8月21日)。この名前を付ける理由としましては、私は競馬好きであり、特にタイキブリザードのファンです。また、大樹レーシングクラブの一口会員でもあります。そこで、どうしても「大樹」と名付けたいと、妻に言ったところ、「かわいい名前」ということでOKができました。そして、「大樹」(タイキ)という名前になりました。(父)



## 北海道旭川市の大樹さん

特別住民番号624

ぼくの名前は後藤大樹です。学校のテストなんかで名前を書くときに、「大」の字以外はむずかしいので大変です。それに本当は大樹は「たいじゅ」とよむので友だちに「たいじゅう」とか「かいじゅう」とか言われるので少しやです。でも去年、北海道にひっこしてきたら、ぼくと同じ名前の町があつてすごうれしくなりました。



ぼくの名前はパパとママがつけました。ぼくは生まれた時にすごく小さくて2,018グラムしかありませんでした。だから生まれてすぐ救急車にのつて大きな病院につれて行かれてしまいました(せつかく救急車にのれたのにぜんぜんおぼえてなくて、ざんねんです)。

ぼくがいない病室でパパとママはどんな名前にしようかと考えました。

ぼくが予定よりだいぶ早く生まれてしまったので、パパとママはまだぼくの名前をぜんぜん考えていませんでした。

「うーん、うーん、どうしよう、なんていう名前にしよう」パパとママはいっしょうけんめい考えました。

「小さい小さい赤ちゃんに早く大きくなってほしいから、まずとにかく、「大」という字をつけよう」とパパが言いました。8月の暑い暑い日でした。パパとママが暑いなあと思ひながら窓の外を見ると、まっ青なまっ青な空に大きな大きな、みどりの葉っぱをいっぱいつけた木が見えました。あの大きな木のように、小さな赤ちゃんが早く大きくなるといいなあ、とパパとママは思ひました。

「そうだ、大きな木だ、「大樹」という名前にしよう」とパパが言ひました。そして、ぼくの名前は「大樹」になりました。

ぼくの名前はほんとは「たいじゅ」だけど、みんなはじめは大体「たいきくん」とよびます。いつもまちがえられるからいやだな、と思ひていたけど、同じ名前の町があるから「たいき」でもいいかな、と思ひます。ぼくと同じ名前の大樹町にまだ行ったことがないので早く行ってみたいです。